

令和3年度 第2回北杜市健康づくり推進協議会 会議録

- 1 開催日時 令和4年3月2日（水） 午後3時半から
- 2 開催場所 長坂総合支所 2階大会議室
- 3 出席委員 吉田和徳、津金永二、小池雅美、松田由美、原真樹子、小宮山幸枝、小林初男、岡安祐樹、跡部元、矢巻未菜、清水精、赤羽久
- 4 欠席委員 清水より子、徳光康平
- 5 出席職員 八巻健幸市民部長、興水介護支援課指導監、ほくとっこ元気課こども元気担当 藤原、坂本 介護支援課包括支援担当 小泉
- 6 事務局 浅川健康増進課長、中田保健指導監、佐藤栄養指導監 健康づくり担当 有賀、志村
- 7 会議録署名 松田由美委員、原真樹子委員
- 8 公開・非公開の別 公 開
- 9 傍聴人 0人

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 部長あいさつ
4. 議事（議長 会長）

(1) 第3次北杜市健康増進計画について事務局より説明する。

質疑応答

委員

健康増進計画42ページの飲酒と喫煙の項目について、未成年は飲酒を「しないようにしよう」ではなく、「してはいけない」にするべきではないですか。概要版の同じ項目も同様になっています。

また、喫煙や副流煙の害の項目について、「喫煙・受動喫煙」と・点ではなく、「喫煙、受動喫煙」と句点にするべきではないですか。

佐藤指導監

先に2点目の質問に回答させていただきます。ご指摘のあった箇所につきましては、事務局で確認をして修正をさせていただきます。

1点目の質問についてですが、「してはいけない」という強い言葉ではなく、「しないようにしよう」と優しい言葉にしてあります。「してはいけない」というような、断定的な言葉でよろしいというご意見があれば修正いたします。

委員

ご意見の通りだと思います。飲酒をしてはいけない。

委員

飲酒をしてはいけないのは当たり前のことです。

佐藤指導監

では、未成年は飲酒をしないという表現に修正いたします。

委員

46、47ページから進捗管理と評価についてのことと令和8年度の目標値が記載されています。各年度の目標値は、毎年健康づくり推進協議会へ報告し審議しますとなっていますが、年度ごとの目標値は設定するのです

か。いきなり令和8年度の目標についてどうかと言われても、各年度の目標が見えない気がします、どのような考えで推進するのですか。

佐藤指導監

計画では令和8年度の目標ということで、5年後を目指しましょう、という書き方になっています。各年度の目標値は、各担当が当年度の目標や事業の内容をこういうふうにしましょうと、新しい事業を計画する段階で毎年変わっていきます。最終的に令和8年度を目指して、各事業の目標という形で定めていくことになっています。計画の方には毎年の目標はお示しできなかったのですが、事業ごとには毎年目標を定めて実施していきます。

委員

最終的には令和8年度の目標値が目標ですね。その令和8年度の目標を達成するために、何をすべきかという取り決めをしていかないと、だんだんずれて行ってしまっているのではないかと私は思います。

浅川課長

今の内容については、最終目標を令和8年度と設定しています。第4章にあるそれぞれの内容について事業を実施し、その内容を点検・評価します。これは毎年行っていかなければならないので、その最終目標として、令和8年度の目標を目指していくこととなります。

委員

飲酒のところで、未成年の飲酒という言葉が出ていましたが、成人年齢の引き下げがあって、成人であることと飲酒ができる年齢がイコールでなくなっているはずです。未成年は令和4年度から18歳に満たない人を指すことになるので、未成年という言葉自体を替えた方がいいかと思います。

浅川課長

言われるとおり、未成年という言葉と飲酒のできる年齢とが違ってきますので、こちらは年齢の表記をしっかりさせていただくということで、変更させていただきたいと思います。

委員

基本理念に「気づき 築く 健康ほくと」とあります

が、健康ほくとの「康」の字は「幸」のほうがいいのではないですか。健幸市民部長が「幸」となっていますので。

八巻部長

令和3年3月31日までは健幸市民部ですが、令和4年4月1日から機構改革によって健幸市民部という名前がなくなります。今後は福祉保健部、市民環境部となりますので、「幸」という文字は使わなくなります。ですので、その箇所については通常の「康」を使用していきます。

委員

発行元にも健幸市民部とありますが、全て変えますか。

浅川課長

裏面の発行元の部分は、今は健幸市民部と記載がありますが、そちらも発行の時には4月以降の部課名を明記したいと思います。

(2) 第2期北杜市自殺対策計画の策定について事務局より説明する。

質疑応答

委員

24ページの「自殺のその多くが追い込まれた末の死」というところで、そこを読んで文章がなにかおかしいと感じました。最初に自殺の背景が書いてあって、その次からの「自殺に至る心理は」という文章には「様々な要因で追い詰められて自殺以外の選択肢が考えられない状態に陥ったり」とあるので、国語的にたり、たりと連続しなければいけないのかと思うが、その「たり」の後ろには「社会とのつながりの減少」や「生きていても役にたたないという役割喪失感」、「与えられた役割の大きさに対する過剰な負担感」とある、これが様々な要因になるのか。とすると、ずっと「たり」でつなげるとおかしくなっていくとも思う。なんとなく言いたいことはわかるのですが、文章的にこのままでは変かなと思います。具体的にどうしろと言われると、なかなか難しいのですが。

議長

「たり」が一つあると、もう一つどこかに「たり」が

ないとおかしいということでしょうか。

委員

それがなくても通じれば良いのですが、この「自殺に至る心理としては様々な要因で追い詰められて」と書いてあって、その後の「社会とのつながりの減少や」からの文章が、その様々な要因の中身を書いているのかと思ったりもするのですが、様々な要因とはこれではなく、上の文章の最初の1、2行目のところが本当の要因ではないか。なんて思いながら読んでいます。難しいです。この文章を直すのはちょっと難しいですけども、何かよく読むと変だなと、どこへどういうふうにつながってるかというのがわからなくなりました。

議長

これは以前の計画策定にも使っている文章でしょうか。新たに作ったのでしょうか。

中田指導監

ご指摘のあった箇所は、少し難しく、どのように組み合わせればいいのか、と思います。自殺対策はもともとは厚生労働省から自殺の大綱というものが出ていまして、そこを抜粋した部分がありますので、もう一度きちんと確認をさせていただいて、文章の表記を修正させていただきたいと思います。

議長

ご検討ください。委員のおっしゃる通り、ではどのように直すのがいいかというと、ちょっと悩ましいですね。

委員

「自殺に至る心理としては」から始まる文章が、最後の方の「追い込まれてしまう過程とみることができます」という箇所にどうつながってくるのかがわかりません。

委員

自殺対策計画の2ページ、並びに概要版の最後のページですが、北杜市の自殺の実態として、発見地ベースの死亡率が国や県より高い。もう一つは、市民以外の方が市内で自殺する割合が非常に高いという部分が資料に載っています。これについては、先ほどの説明の中にもありましたが、令和3年度から試行的に巡回等を実施す

ると回答もありました。これはなかなか難しい問題で、広範囲にあっていづれがどういう行動をとるかわからないのが実態ですし、実際に検索をしたこともあるんですが、非常に難しい。確かに、試行的に巡回をしていただけというのは大きな安心がありぜひお願いしたいのですが、同時にあと1、2点良い対策があれば、計画等に盛り込んでいただければと思います。

それからもう一点、「死亡者数・自殺死亡率の推移」の中で、平成26年の死亡者数、自殺の死亡率の全ての数値が他の年と比べて突出しています。何か特別にあったのでしょうか。わかったら教えてください。

中田指導監

平成26年は住所地も発見地も多くなっています。この年は大雪だったということがありました。雪に関連した方面からはなかなかどうしてってところかわからず、また亡くなった方の思いがなかなか見えにくい部分があり、把握はしていません。今回はお答えができず申し訳ありません。

議長

その他、ございませんでしょうか。

委員

この計画に直接かかわることではないのですが、学校でも命の大切さに関する取り組みを進めていくという計画がありまして、これまでも市の保健師さんと命の学習であったり、愛育会とタイアップした赤ちゃん抱っこ体験であったり、そういったことを各学校でしていただいていたのですが、先日の会議の折に、今度はそれは市のほうではやっていただけなくなって、希望すればお手伝いはいたしますというニュアンスになったと聞きました。こういうことを進めているにもかかわらず、そんなふうに変ってしまったということについて、ちょっと疑問に思うので、詳しいことがわかったら教えてください。

中田指導監

小学校や中学校での思春期授業については、健康増進課が担当ではなく、ほくとっこ元気課になっております。ご質問の事業がなくなってしまった背景について健

健康増進課ではお答えできませんけれども、健康増進課としては中学校を対象にSOSを子どもさんたちが出しやすいようにするためには、どんなふうにしていけばいいかということを出向いて、先生たちと協力をしながら実施することを新規に考えておりますので、その点でご協力をよろしくお願いしたいと思っております。

委員

何か組織が改変されて別の課になったというふうに聞きました。何かちょっと聞き慣れない名前ですけれども聞きました。そちらに変わったってことも関係しているのでしょうか。どういうところに引き継がれて、どこへお願いしていいのかということをもし教えていただければお願いします。

職員

ほくとっこ元気課の保健師です。上司は議会对応で欠席になっております。先ほどおっしゃられた会議で上司が説明をさせていただいたところですが、ネウボラ推進課に課名が変更するという事で、妊娠期から乳幼児期まで切れ目のない支援をしていくということとなりまして、そちらの方に業務のウエイトが置かれていくということもあるということから、いのちの学習については、今まではほくとっこ元気課が担当して、こちらの方から先生方に日程案や事業案をお伝えしながら打ち合わせをさせていただいていたのですが、今後は養護教諭の先生方の方から外部講師ということで市に依頼をしていただいて、職員が講師という形で伺うこととなりますので、お手数ですが派遣の申請で依頼をしていただけたところで日程調整をしてから、対応をさせていただきます。内容については先生方と相談しながら、各中学校の養護教諭の先生方が課題だと思っていられる子どもさんのこととかもあると思いますので、先生方と一緒に、今までの内容プラスでやっていければと思っております。私も担当させていただいていた事業となりますので、ちょっと残念な部分もありますが、養護教諭の先生と相談しながら、より学校の内容に即したものができればと、より充実させていただければというところは思っております。よろしくお願いたします。

委員

それについていいですか。いのちの学習の件についての話ですが、愛育会としてもいのちの学習っていうのは研修として参加していて、とてもいのちを大切にすい
わゆる自殺防止対策の根底にあるような学習をどの学校でもさせていただいてます。愛育会の会員もそこに行
って子どもたちの様子を見て、赤ちゃんの抱っこ体験を
して、非常にいい研修会だったとそういう思いを持っているんですが、それが学校から要請をしないと実施され
ないということとなると、ある意味ではだんだん衰退し
ていってしまっ、もったいないとか寂しいという
か。どういうところでそういう話を子どもに学習させて
いけばいいのか、命を大事にしていくことの大切さを教
えていけばいいのか不明瞭になるような気がします。
ぜひ行政主導でやっていく部分があってもいいのでは
と思います。今たまたま聞かせていただいて、え、そう
なんだって思ったので、ぜひそういういいものを継続し
ていってほしいと思います。もう一点いいですか。ゲ
ートキーパー研修会をしているということで、その研修を
受けた方がどれくらいの数になるのかわからないので
すが、研修会で育成した自殺をしないように支える人材
が市の中にはかなりの数がいらっしゃるのではと思
うんです。せっかく研修を受けて知識を身につけたのであ
れば、それを生かして自殺防止対策の中で動ける組織が
あるといいな、なんてことを思います。ハイリスク地へ
の対策で見守り声掛けとありますが、行政のそういうボ
ランティアとして協力できる場があるならば、ゲートキ
ーパー研修を受けた方に活動する場がないというのは
ちょっと残念だと思います。ぜひ方法を考えていただ
ければと思います。

中田指導監

市でゲートキーパーの養成をさせていただいている
のは、今のところは、地域組織の方たちが中心で、食生
活改善推進員であったり、愛育会であったりです。研修
で学んでいただいて、地域に帰って愛育会の活動と同じ
ように見守りをしたり、声掛けしたりしていただくとい
う形ですが、なかなか心の問題は、私たちが養成した方
たちにどのように地域の中で活動していただくかとい
うことを、しっかりきちんと決めることが難しく、一回

聞いただけで終わってしまう研修になってしまっています。これからは地域力がとても大事になってくると思いますので、研修の体制についての見直しや地域で見守ることができる方法についてしっかり検討していきたいと思います。ありがとうございます。

委員

資料の32、33ページの「こども・若者への対策」について少し発言をさせていただければと思います。まず一つ。33ページに北杜市教育支援センター運営事業（再掲）の事業内容のところに「エールを設置運営します」と書いてありますが、すでに設置運営されていると思うので、もちろん再掲載だと思うのですが、これは不要なのではと思います。一方でエールなんですけれども、ほかの目標とこのエールについてはトレードオフの関係になっているはずなので、他の目標がきちんと達成できていけば必然的に必要なくなっていく目標のはずです。なので例えば、不登校の児童がたくさん出てきたのでエールにもっと予算を割きます、人員を割きます、ということだとこれって実は全く解決策になってなくて、どちらかというとならぬというものは縮小されていって、本来必要のない状態になるというのが一番いい状態だと思います。なので、この中にエールが運営されるという目標が入っているということは、要はそれをやってもやはり出てくる不登校の子どもたちを支えるために存在しているという、ちょっと他のものと、目標の質が違うということは何らかの形で、やはり認識しておかないといけないだろうと思っているところです。

それと、関係機関の中に子育て支援課とか教育総務課があるんですけども、内容によってはこれは教育委員会というのが入ってくるんじゃないかと思うのですが、教育委員会の名前がないので、できるだけ教育委員会の名前をこの中に盛り込んでおいていただきたいと思います。ぜひ巻き込んでいただきたいと考えているところです。特に子どもというのは、ここに書かれている内容を見ると、どちらかというとならぬ「相談窓口を設置します」、「相談してもらえれば対応します」もしくは「申し出てもらえば支援します」というような内容のものが結構たくさんあるんですけど、子どもって、自分から何かを、例

えば市の窓口に自分で電話をして申し出ができるかという、そういう子どもは非常に少ない状態なので、どちらかという意見が吸い上げていかないと、なかなか本当の問題解決が難しくなってくると思います。できれば、教育委員会等を巻き込んで積極的に子どもたちのSOSを吸い上げられる仕組みを整えていただきたいと思っています。

その中では、多分ここにいらっしゃる方の管轄ではないと思うんですけども、つい最近あったアンケート調査の取り方について、非常に疑問を感じたのでせっかくなので。もしお戻りになって担当の方がいらっしゃれば、ぜひ伝えていただきたいんですが、何か家庭内の虐待に関するアンケートがきたんですが、中身を見ると子どもがまず自分が虐待を受けているかどうかを書くんです。書いて、その上でそれを親に渡して、親がそれを見てその内容について間違いありませんというサインをするんです。これ、子どもが虐待を受けていますって書いて、親がそのとおりですってサイン書くはずがないんです。普通は。このアンケートはいったい何なんだろうと思って見ていたんですけども、うちは受けてないからサインしておきましたが、そういう情報の引き揚げ方も確かに親御さんへの配慮でもあるんだと思うんですけども、もう少し子どもからダイレクトに吸い上げられる、そんな仕組みを整えていただいた方がいいのではと思いました。

それと、もう一つ。いくつも申しわけないですが、この対策の中に、一つは今お話しした虐待というものに対しての言葉が実はあまりないんです。なので多分、家庭児童相談室運営事業でなんでも引き受けます、ということだと思いますが、やっぱり、「虐待のときはこの事業」ときちんと示されていた方がわかりやすいと思います。その他に括っていい項目ではないと思うので、ぜひ虐待はここだよというのがよくわかるようにしていただきたい。もう一つはヤングケアラーの問題です。最近すごくクローズアップされていると思いますが、その部分に関しての記載が全くないので、これについてもぜひ取り入れていただくとありがたいと思っていますところですよ。

浅川課長

ご意見ありがとうございました。ちょっと内容的にこの場で全て回答ができない部分もございますので、いくつかの点については持ち帰らせていただきたいと思います。また、教育委員会という名称の部分につきましては、それぞれ教育委員会の所管の中から、例えば教育総務課ですとか生涯学習課というふうに、所管課で示させておりますので、決して教育委員会が入っていないわけではございませんので、ぜひご承知いただければと思います。また、今お話がありましたアンケートについてはまた戻って所管の方とお話をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

議 長

ありがとうございました。その他ないでしょうか。それでは2の自殺対策計画の策定については以上で区切りとさせていただきます。活発な意見をいただきました。質問ご意見の内容は、持ち帰っていただいて、整理していただいて、製本に進まれるときには必ず反映していただくようお願いいたします。

- (3) その他について事務局より説明する。
<協議事項、報告、お知らせ等なし>

5. 閉会（原副会長）

以上、令和3年度第2回北杜市健康づくり推進協議会の内容を記載し、その内容に相違がないことを証するため、ここに署名する。

署名委員 _____

署名委員 _____